

行政視察報告書

平成29年 5月16日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 委員長 東川 三郎  副委員長 斉藤 一信
委員 天野 喜一郎 委員 大月 隆司
委員 大山 盛久 委員 坂本 公明

随行 石田 輝宏 (産業部) 随行 遠田 秀数 (事務局)

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 兵庫県 豊岡市議会

住 所	兵庫県豊岡市中央町2番4号
電 話	0796-23-1119
視察案件	出石まちづくり公社・観光振興について
期 日	平成29年 5月 8日 (月) 13時30分 から15時30分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	出石振興局

概 要	<p>◎「出石まちづくり」の経過（概要）</p> <p>昭和37年10月 出石町観光協会設立</p> <p>昭和45年 4月 観光協会を改組</p> <p>平成 8年 出石皿そば組合が設立</p> <p>平成10年 7月 第三セクター出石まちづくり公社設立</p> <p>平成17年 1月 出石まちづくり公社株式増資</p> <p>平成17年 4月 豊岡市合併（1市5町）</p> <p>平成17年 6月 観光協会NPO法人格を取得</p> <p>平成18年 4月 いずしトラベルサービスオープン</p> <p>平成20年 3月 出石皿そば協同組合設立</p> <p>平成20年 7月 出石永楽館竣工 出石まちづくり公社指定管理者指定</p> <p>平成23年 7月 旅籠「西田屋」オープン（うなぎの寝床特区）</p> <p>平成27年11月 豊岡市立出石家老屋敷リニューアルオープン</p> <p>平成28年 3月 いずし観光センターリニューアルオープン</p> <p>◎出石観光入込客の推移</p> <p>出石観光協会設立後のイベントなどで、昭和48年から入込客が微増してきた。出石城や街並みを保存し、通過型の観光地の位置づけとし観光案内所のオープンし入込客が増えている。平成7年の阪神淡路大震災までは入込客が増えてきたが、震災後から微減している。TVドラマのロケ地としてメディアを利用してあぴーるをし入込客を保っている。</p> <p>◎「出石皿そば」について</p> <p>江戸末期より出石焼の小皿に盛り付け5皿で1人前として提供し、追加は1皿単位で注文する。</p> <p>昭和40年当時2軒程度あったものが、観光客の増加とともに続々と開店し、平成10年には、49件まで増加した。</p> <p>当初は秋そばの収穫以降3月までの間、開店され食べることができたが、現在は年中そばを食べることができる。</p> <p>◎「出石まちづくり公社」設立の経緯と概要</p> <p>出石町には20数年来、観光、宣伝に取り組んできた観光協会があり、観光センターやそば店の経営を行ってきたが、平成3年ごろには観光協会の独立、法人化の声が高まってきた。また、出石町では町民によるまちづくり活動が盛んであり、商工会、観光協会はもとより出石城下町を活かす会が数十年前から、さらに近年では女性たちのまちづくり会議が結成されるなど、様々な町民グループがまちづくりの調査研究を重ねている。</p> <p>こうした背景に、町民の活力と発想を活かした第3セクター設立の機運がたかまり平成10年6月に「出石まちづくり公社」が設立された。</p> <p>役員8名 従業員24名 資本金9,800万円（1株5万円）株主339名</p>
	添付書類

【2】 兵庫県 JFEライフ株式会社 三田グリーンハウス

住 所	兵庫県三田市東本庄真勝谷 2736
電 話	079-568-6831
視察案件	エコ作・水耕栽培について
期 日	平成29年 5月 9日(火) 13時30分 から15時00分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	三田グリーンハウス
概 要	<p>JFEライフの野菜工場は、全面ガラス張りなので、太陽の光をふんだんに取り込んでいる。太陽の光をたくさん浴び、水耕栽培で育てたおいしさいっぴいの新鮮野菜を1年中届けている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術面－太陽光を併用した栽培であるが、最適な栽培環境での生産には、温度、光量等に高度なコントロールを要する。これに対し永年の研究・栽培で培われた技術によって対処している。 2. コスト－農地でないため、建築基準法などが適用され、結果としてコスト増となるが、生産量を増やし吸収すべく努力している。 3. 販路の確保－取引先の紹介や地道な営業活動などで新たな取引先を開拓している。 4. 栽培技術向上により安定生産を実現。年間コンスタントに購入してもらえる取引先をいかに探すかが課題である。 <p>◎事業概要</p> <p>JFEグループのJFEライフ株式会社では、1999年兵庫県三田市に太陽光併用型植物工場である三田グリーンハウスを建設し、水耕栽培によるレタス生産を開始。2004年首都圏進出にあたり茨城県土浦市に土浦グリーンハウスを建設、2007年第2工場、2009年第3工場を増設し現在に至る。</p> <p>栽培施設は自社独自の方式を採用している。従業員は嘱託を含め18名、収穫・出荷作業期間中は交代で1工場常時約20名のパートを雇用。</p> <p>◎取り組みのきっかけ</p> <p>1984年JFEスチール（旧川崎製鉄）が新規事業の一環として開始。</p> <p>◎取り組みの成果</p> <p>コンピュータ制御された工場内で、品質管理を徹底し農薬を使わず安定的に生産・出荷している。</p> <p>品質面、技術面とも常に向上を図り、毎年生産量、販売量を継続的に伸ばしている。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 兵庫県 芦屋市議会

住 所	兵庫県芦屋市精道町7番6号
電 話	0797-38-2001
視察案件	市営住宅等総合活用計画について
期 日	平成29年 5月10日(水) 9時30分から11時30分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	芦屋市議会 高浜町1番地住宅(建設中)・南芦屋浜団地
概 要	<p>本計画に基づく市営住宅等の建替・用途廃止の実施には長期間にわたる取り組みが必要であり、また、ストックの長寿命化をめざして予防保全的な維持管理を計画的に実施し長期にわたって活用するためには中長期的な方針を打ち出す必要があるため、本計画の当初から計画期間は、平成22年度41年度20年間とし、総合計画等の計画期間をふまえて、その前期を平成22年度から平成31年度まで10年間、後期を平成32年度から平成41年度までの10年間として策定した。</p> <p>◎高浜町1番地住宅(建設中)</p> <p>高浜町1番地住宅等大規模集約事業は、PFI事業として民間活力を活用するが、市が示す施設計画の基本方針として、ア)良好なコミュニティの形成、イ)良好な住環境の確保、ウ)緑豊かな美しい芦屋の景観の形成への配慮、エ)周辺環境への配慮、オ)少子高齢化への配慮、カ)環境への配慮、キ)市営住宅の維持管理への配慮という内容を示すとともに、設計要領上では例えば「1住戸から原則エレベーターを2基利用できる平面計画とし」エレベーターの定期点検時にも車いす等の日常使用に支障が出ない計画を要求水準としている。</p> <p>また、併設する福祉施設との関係を重視し、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指す」を理念とし、同事業において単に不足している社会福祉資源を充足する観点ではなく、建替住宅に移転する高齢者や障害者が安心して生活できる環境づくりに寄与するとともに、福祉施設利用者とその関係者や建替住宅の住民をつなぎ、市民の交流の場、また社会参加の場の創出を期待し、人と人をつなぎ、広げ、温かい配慮がなされた誰もが行ってみたいとなる地域(まち)づくりの実現を目指している。</p> <p>◎南芦屋浜団地</p> <p>南芦屋浜団地は、平成9年建設。阪神・淡路大震災による被災者のための災害復興公営住宅が建設され、高齢者や身体障害者用住宅も予定されており、市営・県営住宅各6棟(6~12階)が配置された。市営住宅は400戸、県営住宅は414戸</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

平成29年度 建設産業委員会 行政視察
平成29年5月8日(月)～10日(水)

兵庫県豊岡市

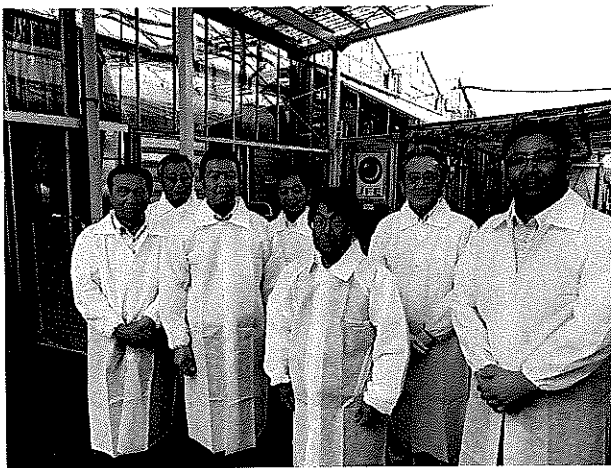


出石観光協会ガイド

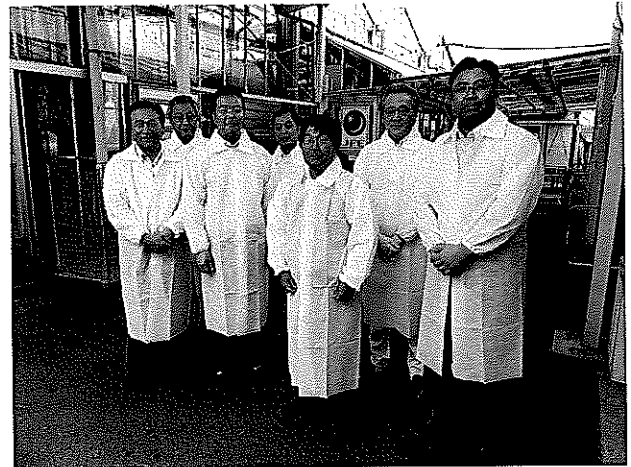


出石町並み保存

兵庫県三田グリーンハウス



三田グリーンハウス



水耕栽培

兵庫県芦屋市



高浜町1番住宅



南芦屋浜団地